

松井元興 まつい げんき 化学者、俳人。明治六年十一月二十五日福岡縣生れ、
 昭和二十一年五月二十四日歿（八三—一九四）。明治二十一年東京帝國
 大學化学科卒。四十四年理学博士。ドイツ、イギリスに留學、歸朝後
 京都帝國大學教授。昭和六年日本化学會會長。また八年には所謂瀧川
 事件後の京大總長となり、次ぐり命館大學學長を務めた。分析化学、
 電解分析、有機電気化学分野の權威。

一方木材と號して俳句を能くし、『古稀記念句集』『四方の鐘』を上梓。
 終戦後、その物質觀、人生觀と品格ある文章を吐露した隨筆集『雪の
 竹』（昭和二十六年五月十五日續文堂出版株式會社）一卷を遺した。
 他に『自然科学の進歩に對應する道』（昭和十六年十月五日黒書店
 『新國民文化叢書』）、『科學と日本精神』（昭和十九年七月二十日
 續文堂）等。

